

(e) スタディツアー 「グローバルが生み出す力」ゼミ
B コース

生徒：25名

概要：本ゼミは国際理解・国際協力・多文化共生というゼミテーマのもと、ファミリーが取り組んでいる探究課題は多岐に渡るため、スタディツアーにおけるフィールドワーク先として、ゼミのスタディツアー委員の生徒の意見を聞きながら、検討を進めた。従来の修学旅行などにある見学施設や観光というよりは、上記のテーマで先進的な取り組みを行っている自治体や団体に直接交渉し、本ゼミの生徒のために、ワークショップ等を企画していただいた。このゼミが扱う範囲も広く、大きなテーマでもあり、「自分たちに何ができるか」という点で多くの生徒が悩んでいた。そのことを踏まえて、各団体より、実践内容の紹介や高校生にもできることについてヒントをいただく機会となった。

第1日目 ①

訪問先：アジア女性交流研究フォーラム

目的：日本の男女共同参画、ジェンダーの平等やLGBTQの人権について学ぶ

活動内容：女性のエンパワーメント、男女共同参画、グローバルな視点でのフォーラム、ムーブの活動を講義・演習形式で学習

成果：【生徒の振り返り】私のグループで現時点で最終的に出た課題でもある、「女性の社会進出」と「LGBTQの雇用問題」を同時に考えていくという内容の話をフォーラムの方も取り上げられていた。

私たちの考察は間違っていなかったと確信できる機会でもあり、また結論づけはされていなかったの、これからの探究活動を通してグループなりに改善に向けてもっと考えていければいいなと思った。”

第2日目 ①

訪問先：おおいた国際交流プラザ・別府市役所

目的：大分県・別府市が取り組む国際協力、異文化理解、多文化共生について学ぶ

活動内容：1. 別府市の多文化共生の取組（講義 別府市文化国際課高木課長）
2. 中国にルーツを持つ子どもへの支援について（大分県華僑華人会里中事務局長）
3. おおいた国際交流プラザ・JICAの取り組みについて（おおいた国際交流プラザ橋本次長・JICAデスク井本さま）

成果：【生徒の振り返り】実際に社会の中でどう取り組んでいるのか分かりやすく説明し

てくれた。
他の人と繋がるためには自分他との地域のアイデンティティを出すことが大事だと学びました。またその中でどう相手に伝わるか工夫されていることも大切だなと思いました。誰でも過ごしやすい暮らしを作るための条件がわかっていて、奈良も頑張っているんな人が来て楽しめるようにしていけるように頑張りたいです。

第2日目 ②

訪問先：竹田市 歴史学館「由学館」

目的：竹田市の国際交流の取り組み、文化や歴史、アートを中心にした町作りを学ぶ

活動内容：国際交流委員や地域おこし協力隊の方から文化や資源を大切にした町作りの実践について講義形式で学ぶ

成果：【生徒の振り返り】全く知らない観光地でしたがその土地の歴史について聞くことで興味を持つことが出来ました。有名な建築家とタイアップする事で集客にも繋がるし町の活性化が期待されると思いました。
いろいろな工夫をして竹田市の歴史や文化を残そうと街づくりされているのが素敵だと思った。
古くから伝わる文化や特徴、竹など、を大事にされていた。新しい建物も周りの城下町に溶け込んでいた。

(f)スタディツアー 「みんなちがうから、みんなで支え合う」ゼミ 生徒： 32 名
Bコース

概要：大分～熊本間において、インクルーシブや平和について学ぶための行程を計画していた。生徒の関心や探究の対象と完全に一致する内容を計画するのは難しかったため、非日常の場面と、日常生活を比較して「気づき」を持つことを重要視し、事前学習で立てた「問い」を持ってスタディツアーに臨んだ。1日目は「平和」、2日目は「インクルーシブ」、3日目は「防災」をテーマに計画していたが、2日目で行程が終了した。生徒の感想などから、2日目に訪れた「太陽の家」で多くの「気づき」を得られた生徒が多くいたように思われる。一般的な修学旅行と異なる内容であり、途中の中止もあったが多くの生徒は満足して学びを得られたようであった。

第1日目 ①

訪問先：宇佐市平和資料館・宇佐市戦争遺構

目的：太平洋戦争時に存在した、宇佐海軍航空隊の戦争遺構を市教育委員会のガイドを交えて巡ることで、なぜ戦争しなければならなかったのか、今後戦争をなくすためにどうすれば良いのかなどという「問い」について探究するため。

活動内容：宇佐市平和資料館において、資料映像とガイドによる太平洋戦争の説明を聞き、館内の見学を行った。その後、バスと徒歩で宇佐市戦争遺構を巡り、掩体壕などを自分の目で見て研修を行った。

成果：生徒は、真剣にガイドを聞き、展示物や戦争遺構を見ながらそれぞれに「気づき」を持ったり、新たな関心を得ることができていた。

【生徒の感想より】

- ・今までに何回か戦争について学習をしたことがあるけれど、平和資料館に行って、実際に戦闘機を見たり、当時の人が残した手紙を見たり、映像を見て当時のことについての話を聞いて今までよりも興味が出た。
- ・宇佐平和資料館で、桜花の名前の由来について知りたいなと思いました。戦争で絶対に死ぬとされていた特攻の戦闘機になぜそんな綺麗な名前がついたのか気になったからです。



第2日目 ①

訪問先：社会福祉法人 太陽の家

目的：日本パラスポーツ発祥の地と言われる社会福祉法人太陽の家において、関連企業などの取り組みからインクルーシブな社会作りのヒントを得るために訪れた。

活動内容：2グループに分かれて、関連施設の太陽ミュージアムの見学と説明、車椅子体験、パラスポーツ体験、太陽の家が経営するオムロンの工場見学などを行った。

成果：生徒の感想では、この施設に関することが一番多く、日頃自分たちが気づかないようなことに配慮された施設や工場の働き方の工夫に感銘を受けていたようであった。

【生徒の感想より】

・太陽の家のように、身体障害のある方を保護する仕組みがどうして普及しないのだろう。また、太陽の家から一歩足を踏み出すと一般の社会が広がっている隔離感はどのようにして緩和することが可能だろうか。

・太陽の家見学が一番興味を持った。様々な人が使いやすいようにデザインされた最新のテクノロジーに圧倒された。今後、自分たち学生に1番近いところで、なにかこういったユニ

バーサルデザインのようなものを作るとなれば何ができるのか知りたいと思った。



第2日目 ②

訪問先：大分香りの博物館

目的：香りという視点から、ジェンダーについて考えたいという生徒の要望から訪問することとなった。主に、「香りによって、男らしさ、女らしさはあるのか」「性別によって香りの好みに差はあるのか」などという生徒の問いに対するヒントを探究するために訪れた。

活動内容：それぞれが、好みの香りを調合してオリジナル香水を作成する調香体験と、降水に関する講義、博物館の見学を行った。

成果：生徒の中には、自分の五感にも「男らしさ、女らしさ」を認識する感覚があると感じた生徒もおり、体験を通してさまざまな気づきを得ることができていた。

【生徒の感想より】

・香水を作るときの香りに男性用、女性用があって、現代では好みのものを好きなように混ぜても勿論良かった。でも昔のように男性が纏うべき香り、女性が纏うべき香りはこのようなものだと固定観念があった頃は、例えば男性が女性用の匂いをつけていたら変な目で見られることがあったのだろうか。

・大分香りの博物館で、匂いを決める時に男性用の匂いが自分的には全然好きではなくて、男



性と女性で匂いの好みが全然違うんだなと思ったので、なぜこんなにも匂いの好き嫌いが別れるのか男女間についてもっと知りたいなと思いました。